

2014年度 北日本血液研究会活動報告書



I. 事業報告

1. 學術講演会、會議
2. 臨床研究
3. 臨床治験

II. 発表業績

1. 英文論文
2. 和文論文

III. 会則、参加施設

1. 北日本血液研究会 会則
2. 役員
3. 北日本血液研究会 参加施設

I. 事業報告

I-1. 学術講演会、会議

1. 2014年北日本血液研究会幹事会

2014年4月18日(金) 18:30~19:00 ホテルニューオータニイン札幌

2. 第2回血液がん研究会

2014年4月18日(金) 19:00~20:40 ホテルニューオータニイン札幌

基調講演; 「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の病理」

演 者; 北海道大学病院病理部 部長・教授 松野吉宏 先生

特別講演; 「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の最新治療」

演 者; 虎の門病院血液内科 部長 伊豆津宏二 先生

3. Prof. Luznik 講演会

2014年4月21日(月) 18:00~19:00 北海道大学医学部 3-1 共通セミナー室

一般講演; 「移植後シクロフォスファミド」わが国における臨床開発」

演 者; 北海道大学病医学研究科 血液内科 杉田純一 先生

特別講演; 「Posttransplant cyclophosphamide:

Update and mechanisms of tolerance induction」

演 者; Dr. Leonido Luznik, Johns Hopkins University School of Medicine

4. 第2回リンパ腫医療セミナー in 北海道

2014年6月14日(土) 13:00~17:00 北海道大学学術交流会館・小講堂

「リンパ腫ってどんな病気?」

演 者; 北海道大学病院血液内科 竹村 龍 先生

「リンパ腫の治療法について」

演 者; 北海道大学医学部血液内科 小野澤 真弘 先生

「再発、再々発時の治療法について」

演 者; 北海道大学病院血液内科 杉田 純一 先生

「がん患者と家族への心のケア」

演 者; 北海道大学病院がん看護専門看護師 半澤 江衣 先生

グループ・ネクサスとの共催で、患者さんやご家族、リンパ腫に関心のある方を対象に「リンパ腫医療セミナー in 北海道～リンパ腫に対するエビデンスと新規治療法の展望」を開催しました。

5. Prof. Reisner 講演会

2014年9月18日(木) 18:00～19:00 北海道大学医学部・3-1 共通セミナー室
特別講演「Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation
～Past and Future～」

演 者 ; Dr. Yair Reisner,
Immunology Department, Weizmann Institute of Science

6. 北日本血液研究会 2014 年総会

2014年11月7日(金) 18:30～19:00 京王プラザホテル札幌

7. 北日本血液研究会学術講演会

2014年11月7日(金) 19:00～20:15 京王プラザホテル札幌

一般講演 ; 「北海道白血病研究会～5年間のまとめ」

演 者 ; 北海道大学大学院医学研究科 血液内科学分野 近藤 健 先生

特別講演 : 「急性骨髄性白血病の分子病態と個別化治療」

演 者 : 名古屋大学 血液・腫瘍内科学講座 教授 清井 仁 先生

8. 第1回北日本血液研究会臨床研究ミーティング

2015年3月16日(月) 18:00～20:00 北海道大学病院会議室棟2階第二ゼミナール室

I-2. 臨床研究

1. 試験名:「移植後大量シクロフォスファミドを用いた血縁者間 HLA 半合致移植の安全性と有効性の検討」(JSHCT-Haplo13)

目標症例数: 21例

登録症例数: 35例

登録期間: 3年間 (2013年5月1日~2014年4月30日登録終了)

2. 試験名:「骨髄破壊的前処置による移植後シクロホファミドを用いた血縁者間HLA半合致移植の安全性と有効性の検討 (JSCT-Haplo14 MAC) 」

目標症例数: 38例

登録症例数: 24例

登録期間: 2年間 (2014年8月~2016年7月31日)

3. 試験名:「強度減弱前処置による移植後シクロホファミドを用いた血縁者間HLA半合致移植の安全性と有効性の検討 (JSCT-Haplo14 RIC) 」

目標症例数: 62例

登録症例数: 21例

登録期間: 2年間 (2014年8月~2016年7月31日)

4. 試験名:「造血幹細胞移植後アデノウイルス感染症に対するシドフォビル投与の臨床試験」

目標症例数: 10例

登録症例数: 4例

登録期間: 3年間 (平成25年6月1日~平成28年5月31日)

5. 試験名:「菌状息肉症/Sezary 症候群に対する同種移植後における早期再発予防としての Vorinostat 療法」

目標症例数: 6例

登録症例数: 4例

登録期間：2年間（2013年6月1日～2015年5月31日）

6. 試験名：「フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病（Ph+ALL）における、自家末梢血幹細胞移植とチロシンキナーゼ阻害剤（TKI）での維持療法の安全性について検討する多施設臨床試験」

目標症例数：5例

登録症例数：0例

登録期間：3年間（2013年6月17日～2016年3月31日）

7. 試験名：「抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリンを用いた同種末梢血幹細胞移植療法の多施設共同パイロット試験」

目標症例数：6例

登録症例数：4例

登録期間：2年間（2013年11月1日～2015年11月30日）

8. 試験名：「成人急性骨髄性白血病における遺伝子変異と治療反応性に関する研究」

目標症例数：300例

登録症例数：262例

登録期間：5年間（2009年7月1日～2014年9月30日）

I-3. 臨床治験

1. 治験名「未治療の CD20 陽性 DLBCL 患者を対象とした GA101+CHOP 併用群と rituximab+CHOP 併用群の有効性を比較する第 III 相多施設共同非盲検ランダム比較試験 (GOYA study)」

2013 年 5 月開始、登録予定症例：7 例 (最大 10 例)、登録症例：7 例、2014 年 4 月組み入れ終了

2. 治験名「ブルトン型チロシンキナーゼ阻害薬 PCI-32765 の初発のマンタル細胞リンパ腫の患者を対象とした BR 併用、ランダム化、二重盲検プラセボ対照第 III 相試験 (SHINE study)」 2013 年 11 月開始、登録予定症例：1 例、登録症例：2 例、2014 年 9 月組み入れ終了

3. 治験名「ブルトン型チロシンキナーゼ阻害薬 PCI-32765 の既治療の低悪性度非ホジキンリンパ腫患者を対象とした BR 併用または R-CHOP 併用、ランダム化、二重盲検プラセボ対照第 III 相試験」

2014 年 4 月開始、登録予定症例：4 例、登録症例：2 例、2015 年 5 月組み入れ終了予定

4. 治験名「ブルトン型チロシンキナーゼ阻害薬 PCI-32765 の初発の非胚中心細胞様びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の患者を対象とした R-CHOP 併用、ランダム化、二重盲検プラセボ対照第 III 相試験」

2013 年 12 月開始予定、登録予定症例：5 例 (最大 8 例)、登録症例：4 例、2015 年 12 月組み入れ終了予定

5. 治験名「深在性真菌症の日本人患者を対象とした MK-5592 とボリコナゾールの安全性及び有効性を検討する無作為化、実薬対照、第 III 相非盲検試験」

2014 年 8 月開始、登録予定症例：1 例、登録症例：0 例、現在治験中断中

6. 「慢性 GVHD 患者を対象とした ECP の臨床試験」

2014年4月開始、登録予定症例：10例（全国3施設）、登録症例4例、2015年7月組み入れ終了予定

7. 「サイトメガロウイルス (CMV) 抗体陽性の同種造血細胞移植 (HCT) を受けられる方を対象とする治療ワクチン ASP0113 の CMV 感染抑制効果と安全性を評価するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、第 III 相試験」

2014年7月開始、登録予定数4、登録症例2例、2021年6月組み入れ終了予定

8. 「CD20 陽性非ホジキンリンパ腫を対象としたオビヌツズマブの投与時間短縮を検討する第 II 相臨床試験」

2015年4月開始、登録予定数4、登録症例0例、2015年12月組み入れ終了予定

II. 発表業績

II-1. 英文論文

1. Bone marrow graft-versus-host disease: evaluation of its clinical impact on disrupted hematopoiesis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.

Shono Y, Shiratori S, Kosugi-Kanaya M, Ueha S, Sugita J, Shigematsu A, Kondo T, Hashimoto D, Fujimoto K, Endo T, Nishio M, Hashino S, Matsuno Y, Matsushima K, Tanaka J, Imamura M, Teshima T.

Biol Blood Marrow Transplant. 20(4):495-500, 2014.

2. No effect of humanized CCR monoclonal antibody (Mogamulizumab) on treatment-resistant adult T-cell leukemia with meningeal infiltration.

Tsutsumi Y, Shimono J, Miyashita N, Teshima T

Leuk Lymphoma. 55(2):457-459, 2014

3. Epstein-barr virus-associated smooth muscle tumors after bone marrow transplantation.

Hayase E, Fujimoto K, Mitsuhashi T, Hatanaka Y, Yoshida M, Takemura R, Iwasaki J, Shiratori S, Sugita J, Kondo T, Tanaka J, Imamura M, Matsuno Y, Teshima T.

Transplantation. ;97(1):e1-3, 2014.

4. High level of serum soluble interleukin-2 receptor at transplantation predicts poor outcome of allogeneic stem cell transplantation for adult T cell leukemia.

Shigematsu A, Kobayashi N, Yasui H, Shindo M, Kakinoki Y, Koda K, Iyama S, Kuroda H, Tsutsumi Y, Imamura M, Teshima T.

Biol Blood Marrow Transplant. 20(6):801-5, 2014.

5. Stenotrophomonas maltophilia infection during allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: a single-center experience.

Shiratori S, Wakasa K, Okada K, Sugita J, Akizawa K, Shigematsu A, Hashimoto D, Fujimoto K, Endo T, Kondo T, Shimizu C, Hashino S, Teshima T.

Clin Transplant. 28(6):656-61, 2014.

6. FIP1L1 presence in FIP1L1-RARA or FIP1L1-PDGFR α differentially contributes to the pathogenesis of distinct types of leukemia.

Iwasaki J, Kondo T, Darmanin S, Ibata M, Onozawa M, Hashimoto D, Sakamoto N, Teshima T.

Ann Hematol. 93(9):1473-81, 2014.

7. JAK inhibitors: a home run for GVHD patients?

Teshima T.

Blood. 123(24):3691-3, 2014.

8. Hepatitis B virus (HBV) reverse seroconversion (RS) can be prevented even in non-responders to hepatitis B vaccine after allogeneic stem cell transplantation: long-term analysis of intervention in RS with vaccine for patients with previous HBV infection.

Takahata M, Hashino S, Onozawa M, Shigematsu A, Sugita J, Fujimoto K, Endo T, Kondo T, Tanaka J, Imamura M, Teshima T.

Transpl Infect Dis. 16(5):797-801, 2014.

9. Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation following reduced-intensity conditioning for mycosis fungoides and Sezary syndrome.

Shiratori S, Fujimoto K, Nishimura M, Hatanaka KC, Kosugi-Kanaya M, Okada K, Sugita J, Shigematsu A, Hashimoto D, Endo T, Kondo T, Abe R, Hashino S, Matsuno Y, Shimizu H, Teshima T.

Hematol Oncol. 2014 [Epub ahead of print]

10. Ultra-high level of serum soluble interleukin-2 receptor at diagnosis predicts poor outcome for angioimmunoblastic T-cell lymphoma.

Shiratori S, Kosugi-Kanaya M, Shigematsu A, Kobayashi H, Yamamoto S, Kobayashi N, Iwasaki H, Mori A, Kunieda Y, Yutaka T, Kurosawa M, Kakinoki Y, Endo T, Kondo T, Hashino S, Teshima T; for **the North Japan Hematology Study Group (NJHSG)**.
Leuk Lymphoma. [Epub ahead of print]

11. Human Herpesvirus-6 Pneumonitis around the Engraftment of Cord Blood Transplantation following Foscarnet Prophylaxis in a Patient with Acute Leukemia.

Ishio T, Endo T, Okada K, Shigematsu A, Hashino S, Teshima T.
Case Rep Hematol. 2015:949265, 2015.

12. α -Mannan induces Th17-mediated pulmonary graft-versus-host disease in mice.

Uryu H, Hashimoto D, Kato K, Hayase E, Matsuoka S, Ogasawara R, Takahashi S, Maeda Y, Iwasaki H, Miyamoto T, Saijo S, Iwakura Y, Hill GR, Akashi K, Teshima T.
Blood. 2015 [Epub ahead of print]

II-2. 和文論文

1. ビンクリスチンによる麻痺性イレウスに引き続き posterior reversible encephalopathy syndrome を発症した T 細胞性リンパ芽球性リンパ腫
早瀬英子、杉田純一、藤本勝也、江端浩、山川知宏、吉田美穂、竹村龍、岩崎純子、高橋正二郎、白鳥聡一、近藤健、田中淳司、豊嶋崇徳
臨床血液 55(2), 249-253, 2014

2. Graft-versus-host disease 制御
杉田純一、豊嶋崇徳
臨床血液 55(2), 170-176, 2014

Ⅲ. 会則、参加施設

Ⅲ-1. 北日本血液研究会 (NJHSG) 会則

平成 24 年 10 月 27 日

(第 1 版)

第 1 条 (名称)

本会は、North Japan Hematology Study Group (NJHSG)、
「北日本血液研究会」と称する。

第 2 条 (目的)

本会は血液病の治療の進歩・発展を促すことを目的とする。
患者さんや医療人に対して最新の情報を共有する機会を創出することや臨床研究や基礎研究を通じて血液病患者のためのエビデンスを創出し、地域医療から世界的な医療の発展に貢献する。

第 3 条 (事業)

本会の目的達成の為、次の事業を行う。

第 1 項 年次総会・定例会・研究集会

第 2 項 その他の事業 (研究事業・国内外関係学会との交流等)

第 4 条 (役員)

本会の役員は下記の通りとする。役員任期は 2 年とする。
ただし、再任を妨げない。

第 1 項 代表 (1 名)

代表は、幹事会の互選によって選出され会務を統括する。

第 2 項 顧問 (若干名)

代表の推薦により、幹事会の承認を得て決定する。

第3項 幹事（若干名）

幹事会を構成し会務を分担する。

第4項 会計（1名）

幹事より互選により選出し、会運営の収支決算書を作成する。

第5項 監事（1名）

幹事より互選により選出し、会計を監査する。

第5条（事務局）

本会の事務局を下記におき、本会運営の為の事務処理等を行う。

北海道大学病院 血液内科 医局

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

TEL 011-706-7214 FAX011-706-7823

担当：杉田 純一

第6条（会計）

本会の事業遂行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってこれに当てる。本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日とする。

第7条（収支決算）

本会の会計は事務局において集計し監事の監査を経て、幹事会で承認されなければならない。

第8条（会員）

会員は、北海道大学病院血液内科関連病院に勤務している者並びにこれに準ずる者かつ第2条の趣旨に賛同する者とする。

第9条（資格の喪失）

会員は、次の事由によってその資格を喪失する。

第1項 退会したとき。

第2項 退会は、事務局への書面による申出により行う。

第10条（会議）

会議として、総会、幹事会や研究集会を下記の通りとする。

第1項 年次総会、研究集会は、幹事会の決定によって運営される。

第2項 幹事会は、代表幹事が招集して議長を務め年1回以上開催する。

第3項 幹事会は、役員総数の3分の1以上の出席にて成立する。

第4項 代表ならびに幹事は、年次総会・研究集会の開催地を決定し、研究集会の地区世話人に研究集会の準備（演題の募集等）を依頼する。

第11条（会費）

総会の当日に年会費として参加1施設あたり10,000円を納める。

第12条（会則変更）

本会則の変更は、幹事会において出席者の過半数以上の賛成を必要とする。

第13条（附則）

附則は、下記の通りとする。

第1項 本会則は平成24年10月27日より施行する。

第2項 本会の事業は本会の目的に賛同する企業、その他の団体と共催することができる。

第14条（施行）

この会則は平成24年10月27日から施行する。

Ⅲ-2. 役員

代表	今村 雅寛	札幌北榆病院	血液内科	顧問
副代表・事務局	豊嶋 崇徳	北海道大学病院	血液内科	教授
顧問	笠井 正晴			
顧問	森岡 正信	愛育病院	血液内科	名誉院長
顧問	藤本 望	開成病院	内科	副院長
幹事	岩崎 博	札幌厚生病院	第二内科	主任部長
幹事	福原 敬	札幌厚生病院	地域医療科	主任部長
幹事	黒澤 光俊	北海道がんセンター	血液内科	医長
幹事	小林 一	帯広厚生病院	第四内科	主任部長
幹事	小林 直樹	札幌北榆病院	血液内科	統括診療部長
幹事	柿木 康孝	市立旭川病院	血液内科	診療部長
幹事	田中 雅則	愛育病院	血液内科	副院長
幹事	宮城島 拓人	釧路労災病院	内科	副院長
幹事	西尾 充史	NTT 東日本札幌病院	血液・腫瘍内科	部長
幹事	長谷山 美仁	斗南病院	血液内科	科長
幹事	堤 豊	市立函館病院	血液内科	科長・医長
幹事	山本 聡	市立札幌病院	血液内科	副医長
幹事	家子 正裕	北海道医療大学歯科内科クリニック	内科	副院長
幹事	田中 淳司	北海道大学病院	血液内科	准教授
幹事	橋野 聡	北海道大学病院	消化器内科	准教授
幹事・監事	近藤 健	北海道大学病院	血液内科	講師
幹事	遠藤 知之	北海道大学病院	血液内科	助教
幹事	藤本 勝也	北海道大学病院	血液内科	助教
幹事	重松 明男	北海道大学病院	血液内科	助教
事務局・会計	杉田 純一	北海道大学病院	血液内科	助教

Ⅲ-3. 北日本血液研究会 参加施設

施設代表	豊嶋 崇徳	北海道大学病院	血液内科	教授
施設代表	藤本 望	開成病院	内科	副院長
施設代表	岩崎 博	札幌厚生病院	第二内科	主任部長
施設代表	黒澤 光俊	北海道がんセンター	血液内科	医長
施設代表	小林 一	帯広厚生病院	第四内科	主任部長
施設代表	小林 直樹	札幌北楡病院	血液内科	統括診療部長
施設代表	柿木 康孝	市立旭川病院	血液内科	診療部長
施設代表	森岡 正信	愛育病院	血液内科	名誉院長
施設代表	宮城島 拓人	釧路労災病院	内科	副院長
施設代表	西尾 充史	NTT 東日本札幌病院	血液・腫瘍内科	部長
施設代表	長谷山 美仁	斗南病院	血液内科	科長
施設代表	堤 豊	市立函館病院	血液内科	科長・医長
施設代表	山本 聡	市立札幌病院	血液内科	副医長
施設代表	永嶋 貴博	北見赤十字病院	第二内科・総合診療科	部長
施設代表	川村 詔導	函館中央病院	内科	臨床顧問
施設代表	家子 正裕	北海道医療大学歯科内科クリニック	内科	副院長
施設代表	佐賀 智之	勤医協中央病院	内科	医長